

需給バランスから考えて、 安定した発展に期待

古くからの髪結職と西洋理容

伸びた髪を切る、という行為は石器時代の人類も行っていたようです。それが職業としての「床屋」になったのは鎌倉時代で、一般に普及したのは江戸時代とされています。最初に床屋を始めた店には床の間が設けられていたところから床屋と呼ばれるようになったともいわれています。ただし、江戸時代の呼称は「髪結職」であり、西洋文化としての理容が導入されたのは、明治4年に丁髷^{ちよんまげ}を禁止した断髮令が出てからです。

現在の理容業を管轄するのは厚生労働省ですが、江戸時代の髪結職には時代劇に出てくる目明かしに任命されるものがいたため、昭和初期は警察庁の管轄下にあったようです。また理容業のサインポールは赤白青でつくられていますが、これは西洋の理容店がもともと外科医も兼ねていたため、動脈と静脈を表現したものとされています。バリカンが日本で使われるようになったのは明治7年にフランスから輸入されてからであり、さらに支点が真ん中にある西洋鋏も使われるようになっていきます。

福祉や清掃などのボランティア活動

理容はカミソリや鋏を直接人の肌当てるため、



衛生には特に気を遣います。昭和23年に理容師法が制定されると同時に理容生活衛生同業組合も設立されました。理容用具の衛生管理だけでなく、理容師自身の健康管理も重要です。組合は各保健所の協力のもと、組合員の健康管理の他、9月には衛生の遵守月間を設けるなど衛生管理に力を入れている他、福祉や地域貢献に関わるボランティア活動にも取り組み、10数年前から地域の河川清掃を行なっている支部もあります。また平成20年からは9月の第2月曜をボランティアの日と定め、福祉施設への訪問理容なども行なっています。

愛知県理容生活衛生同業組合の組合員数は東京に次いで全国2番目を誇っています。理容師を志す人の数と需要とが、現況では少しバランスがよくありません。それでも理容業は昔のように髪をカットすることから、ヘアファッションのさまざまな技術が取り入れられているため、まだまだ発展が期待できる業種の一つといえそうです。

DATA ■愛知県理容生活衛生同業組合

所在地：千種区今池二丁目1-13

- ・昭和32年：愛知県理容環境衛生同業組合設立
- ・平成13年：愛知県理容生活衛生同業組合に名称変更
- ・平成20年：ボランティアの日を制定